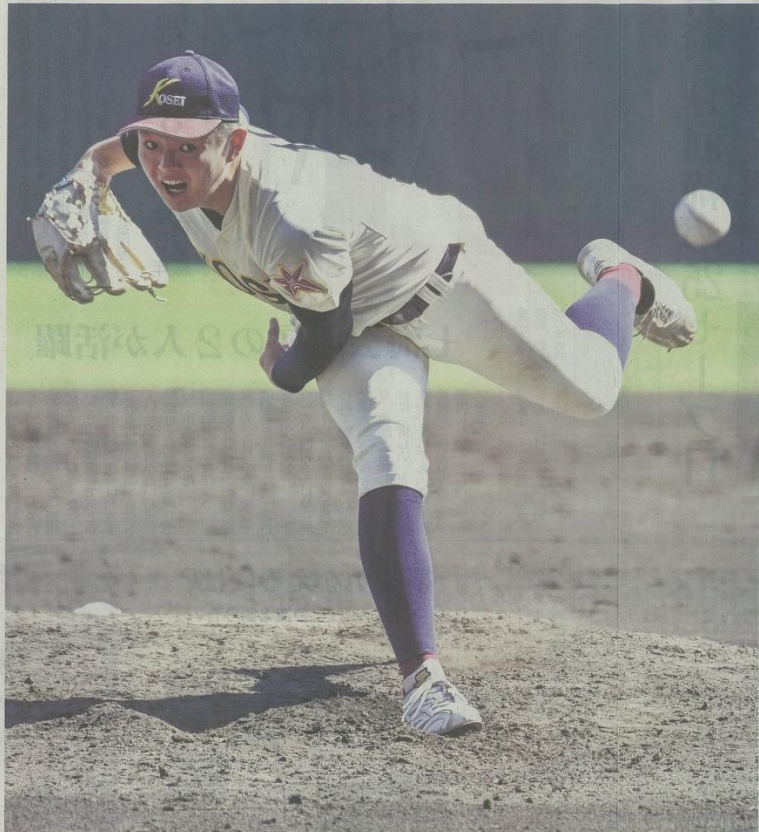


岡本熱投122球 光星快勝



【文星芸大付一八学光星】8回途中3失点と力投した八学光星の岡本琉翼＝甲子園

準々決勝は19日、土浦日大（茨城）戦



八学光星のダブルエースの一角を担う2年生左腕、岡本琉翼が、甲子園のマウンドで躍動した。初戦のノースアジア大明桜（秋田）戦では、同じ2年生左腕の洗平岳が完封勝利。自分も負けられない。背番号10は静かに闘志を燃やしていた。強い気持ちでマウンドに上

ダブルエースの意地 援護受け強気に

がった岡本だが、課題の立ち上がりはこの日も不安定だった。安打と二つの四死球で1死満塁といきなりピンチを招き、内野ゴロの間に三塁走者が生還。あつさりと左肘屈を奪われた。だが、その裏に4点の援護をもたつてからは安心して、素に投げられた。快速左腕をうならせた。140キロの直球にカーブやスライダー、フックを効率的に交え、テ

ン本塁へ打たせて取った。青森大会の背番号は1。甲子園では洗平にエースナンバーを譲る形となった。それでも、「背番号はちよつとは意味するが、マウンドに上がった『俺がエース』という気持ちでいつも投じている」と持ち味の強気の投球を買

た。一方で反響も残る内容となった。八回途中3失点の力投で先発の役目を十分に果たした。9安打を浴びながらも試合をつけた粘りのヒットが光った。次戦は4強入りを懸けた大一番。「洗平とどちらが先発か分からないが、与えられた役割をしっかり果たしたい。お互いに力パシ合つて勝ちつなげられれば」。自信を洋めた岡本の言葉に力がかもつた。（千葉雄世）

「洗平に負けていられない」